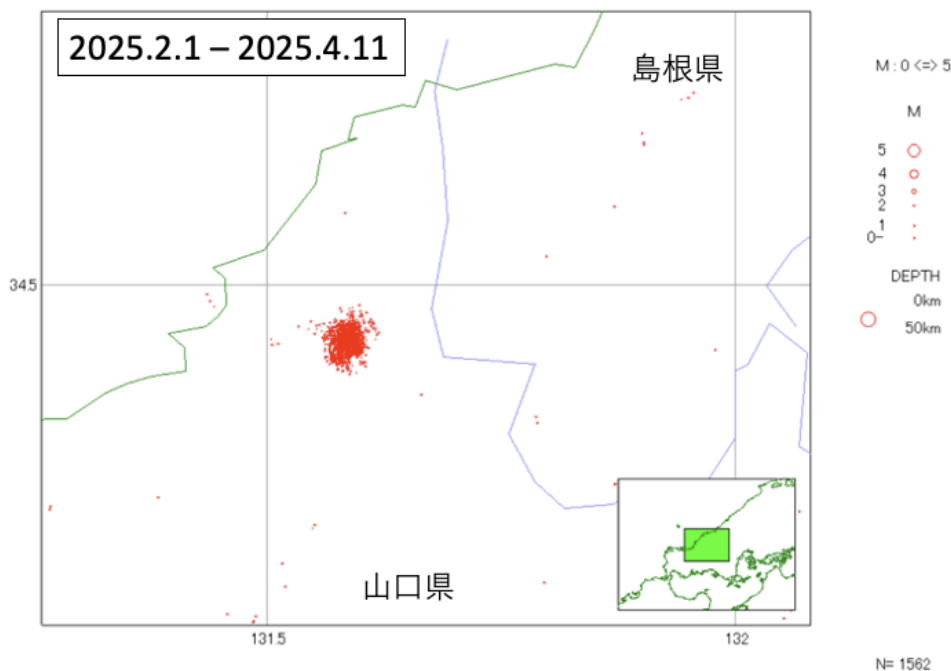


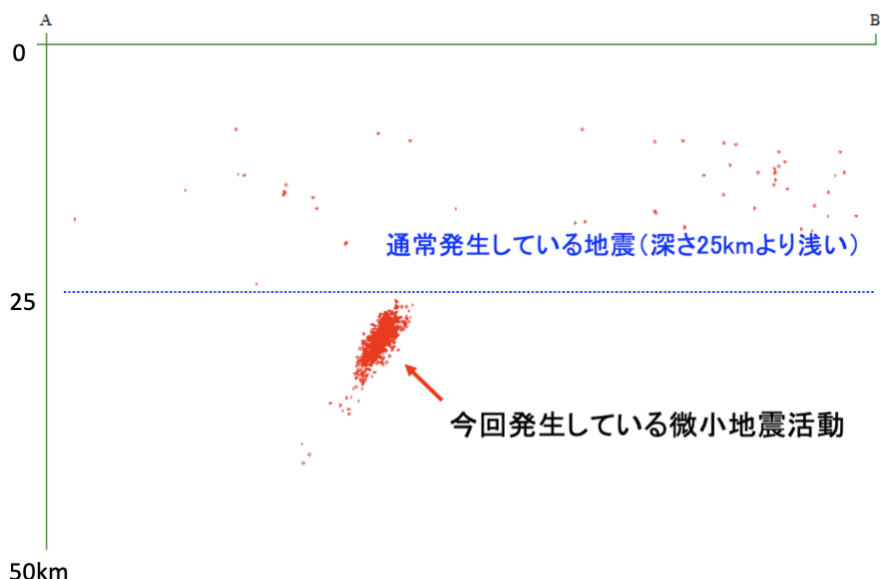
山口県北部で“奇妙な地震活動”

中国山地の山口県北部で、2月以降、非常に活発な地震活動が続いています。いずれも人が揺れを感じない程度の小さな地震(微小地震)ですが、すでに 1,500 個ほどの地震が観測されています。この地震活動のニュースは以下でも報道されています。

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/rcc/1849469?display=1>



興味深いのは地震が発生している深さで、この地域で通常発生している地震より有意に深いところで発生しているのです。また震源が深い所から浅い所へ移動しているのが大きな特徴で、これは能登半島でも同じ現象が起きており、流体の移動が関与している事が考えられます。次の図は上の図の東西断面を示したものです。縦軸は地震発生深さ(km)です。

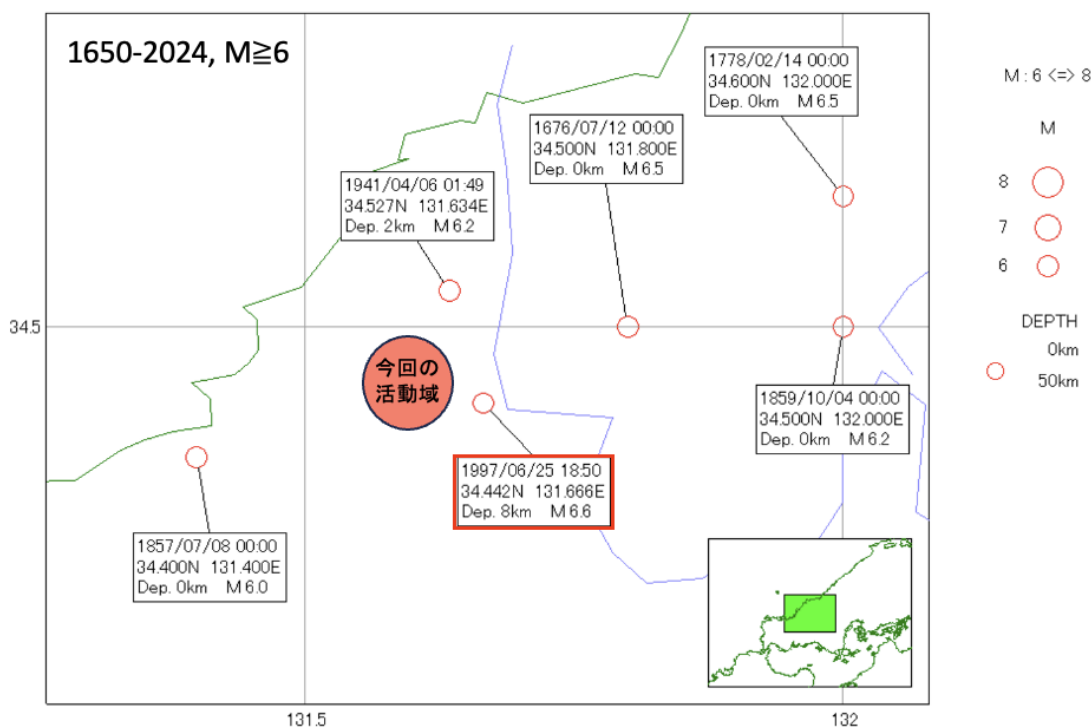


能登半島では、それまで発生していた群発地震の誘因となっていた流体が、浅部の活断層にまで到達し、断層の滑りを誘発し、元日の能登半島地震になったと考えられています。



今回の山口県北部にも、複数の活断層が存在しています。今後、震源の深さが急激に浅くなるという現象が発生すると大きな地震を誘発する可能性もありますが、現時点ではそのような事は起きていません。

次の図はこの地域の過去の地震活動です。1650年以降の地震が古文書等により推定されており、過去に6個のマグニチュード6以上の地震が発生していた事がわかりました。



1997年には深さ8kmでマグニチュード6.6の地震が発生しています(上の図の赤枠の地震)。これは通常的地殻内部の浅い地震で、今回の活動とは深さが異なります。

中国地方では地震活動の静穏化も確認されており、DuMAとしても注視していく所存です。

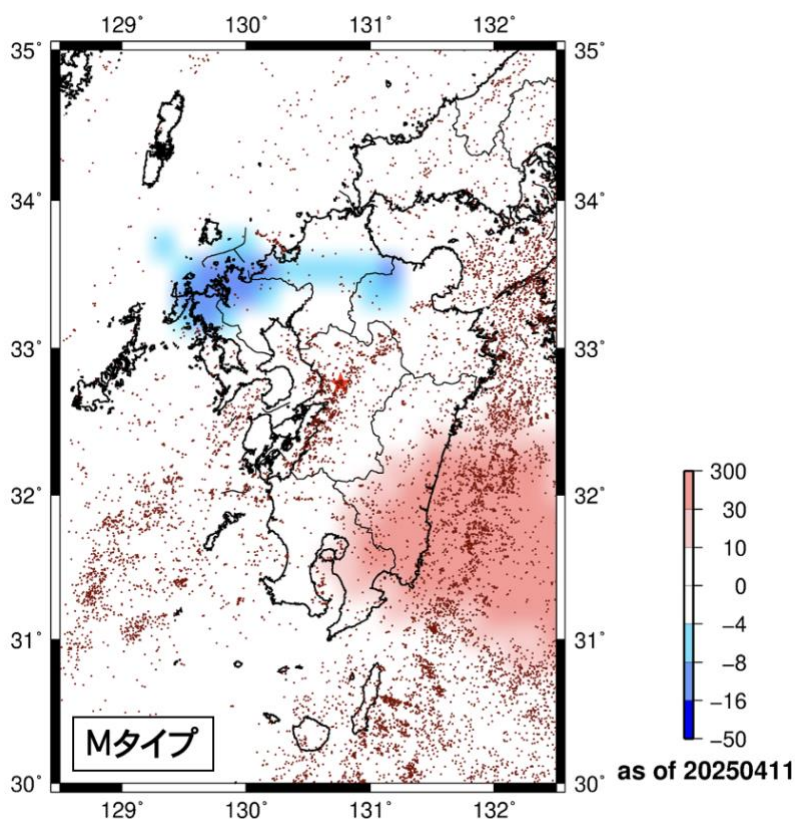
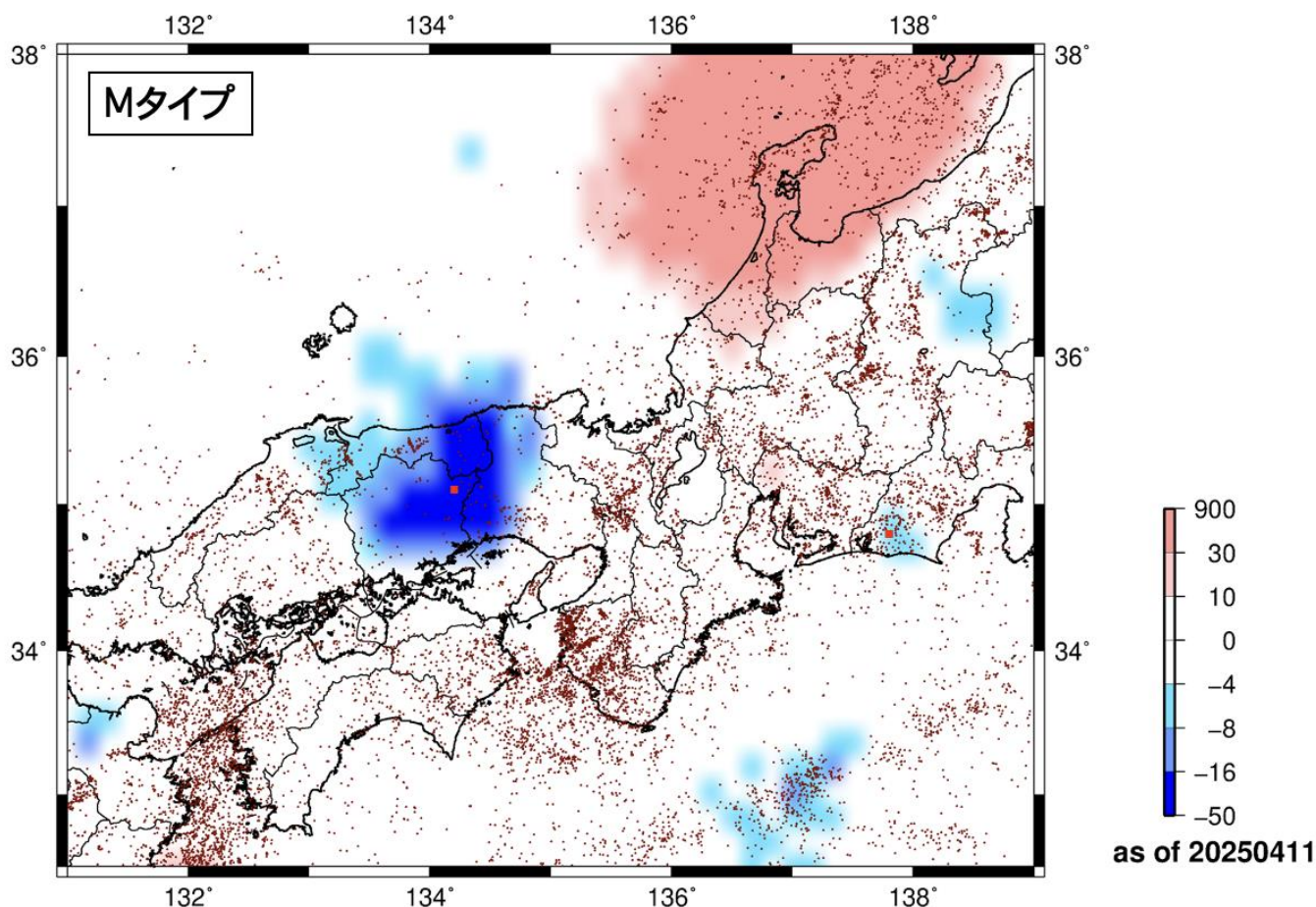
中部・近畿・中国・四国地方および九州の地下天気図®

次のページに4月11日時点の中部・近畿・中国・四国地方のMタイプ地下天気図をお示しします。

能登半島周辺の地震活動活発化異常(地図上の赤い領域)は2024年1月1日の能登半島地震の影響です。この領域で最も気になるのは前回同様中国地方の地震活動静穏化異常で、DuMAとして最大級の関心を持っています。静岡県は静穏化は解消傾向である事がわかりました。

今週号では、山口県北部における微小地震活動について考察しましたが、この地下天気図で解析に用いているのはマグニチュード2以上の地震のため、解析結果に影響を与えておりません。また周囲の地震活動も現時点では特に変化は無いようです。

しかしながら、微小地震活動で、震源が水平方向に移動する事はままありますが、深さ方向に変化するというのは、かなり珍しい現象です。能登半島にせよ、山口県北部にせよ流体が関与している地震活動が観測されるというのは、やはり西南日本全体の応力場が少しずつ変化しているのかもしれない。



次にお示しするのは九州地方の地下天気図です。九州北部での地震活動静穏化異常は継続しています。

宮崎県沖の日向灘の地震活動活発化の異常は、昨年8月8日の南海トラフ臨時情報発表の元となったマグニチュード7.1の地震前から豊後水道を含めて活発化しており、現在も活発化した状態が続いています。